

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム喜楽
(ユニット名)	あい
所在地 (県・市町村名)	岐阜県瑞穂市只越302-1
記入者名 (管理者)	松久智子
記入日	平成 20年 8月 23日

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	「地域の中で自由と安全と楽しみを持って暮らしたい」との理念が、職員にも浸透している。		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	会議、勉強会を定期的に行い、何を大切にし、どう利用者と向き合い、ケアに繋げていくかを常に話し合っている。		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>		
	入所前に具体的な説明をし、入所後も訪問時等、折にふれ繰り返し伝えていく。利用者が、理念に基づき豊かな生活を送ることができるよう支援している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	散歩、買い物等に出掛け、近隣の人達と挨拶を交わしたり、時には庭のお花を摘んで下さったりと、日常的に触れ合える機会が多い。		イベントの声掛けをしており、沢山の方々の参加はあるが、日常的に気軽に立ち寄って頂けるようなきっかけづくりをしていきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	定期的に保育園児、幼稚園児と交流し、双方のイベントにも利用者と一緒に参加している。地域の方々にも夏祭り等のイベントに参加してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所として培ってきた経験や成果を、研修、会合の場を通して話している。 地域の認知症の相談窓口になっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、ケアの振り返り、見直しを行っている。 外部評価の結果はミーティングで報告し、改善点について全員で検討している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、利用者家族、地域住民代表、市町村職員、地域包括支援センターの方々に参加して頂き、会議事項についての経過報告をして、現在取り組んでいる内容についても意見を貰えるようにしている。		家族OBもメンバーであり、経験者としての意見も頂いている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村を通しての研修依頼等で、職員、利用者との交流を図り、積極的に連携に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	個々の研修、及び機会があるごとに職員への説明は行っているが、職員全体としての共通理解ができていない。		情報として理解はしているが、支援できる体制は万全とはいえない。今後も勉強会を続け、理解を深めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	共通認識をもって身体的な虐待だけでなく、薬及びネグレクトについても細心の注意を払っており、全員で虐待防止に向けた取り組みを行っている。		ミーティング等で「高齢者虐待防止関連法」を全員で学び、改善すべき点を話し合い、実践していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ケアに関する考え方、取り組みについてきちんと説明し、将来的な重度化、看取りについても事例を通して説明している。</p> <p>医療連携体制についても詳しく説明し、同意を得ている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見や、何気ない言葉、動きを意識し、職員全体で話し合い、日々のケアに取り入れている。</p> <p>介護相談員の訪問を1回/月、受けている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>来所時には日々の生活や行事を通しての様子、健康状態等を伝え、遠方の家族には写真を送り、近況報告をしている。</p> <p>ケース記録、金銭出納には来所時に確認後サインを頂いている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>行事を通じ家族同士のコミュニケーションが図れるよう留意し、気軽に意見が言える雰囲気作りに努めている。必要に応じてミーティングにも家族の出席をお願いしている。ケアプランの見直しに当たって、家族の思いを伝えて貰っている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃よりコミュニケーションを図るよう心掛け、時にはローテーションの中にも入る等、職員一人一人の意見や思いを理解しようとしている。</p> <p>職員間でも意見や要望を出し合い、話し合うようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の生活時間に合わせてローテーションが組まれている。管理者は余裕をもった勤務シフトになっており、柔軟な対応をしている。</p> <p>夜勤のみの勤務者は、ミーティングや連絡帳等で日中の状況を把握するよう努めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットの利用者共に一緒に出かけたり、同じ建物内で行き来をしており、職員も顔馴染みの関係を築いている。 異動については最小限にとどめている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた研修や会議に参加できるよう支援している。また、研修報告と、報告書の提出で全員が共有し、いつでも閲覧、確認ができるようにしている。 利用者の状態変化に伴った内部研修を行っている。		
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会し、同業者と情報交換をしている。その中で研修に参加し、勉強会の意見交換を通じて質の向上に努めている。		より積極的に他ホームとの相互研修をしていきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃より「職員も人である。一杯話し合い、誉め合い、心を通わせる」の言葉を念頭におき、話しやすい人間関係づくりを心がけている。また、定期的に親睦会を行い、気分転換を図っている。 職員同士の人間関係を把握するよう努めている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も現場に入り、状況や変化、職員の努力や成果を把握し、言葉掛けをしている。 有給取得や、健康診断を行い職員の働きやすい労働条件を整えている。積極的な資格取得のために、技術、知識の習得ができるよう時間の確保をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族共に見学して頂き、本人の思い、家族の思い、生活状況を把握するようにしている。</p> <p>デイ、ショート、体験入所と段階を経て、不安のない関係づくりに努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の思いを何度もゆっくりと時間をかけて伺い、信頼関係を築くようにしている。</p> <p>時間や場所等、相談しやすい雰囲気作りに努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者、家族の思い、状況を確認し、何に困っておられるのかを受け止めるようにしている。</p> <p>事業所の説明だけではなく、一番適切なサービス利用は何なのか、聞き取るようにしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>安心して住み替えができるよう事前に雰囲気を感じてもらったり、デイの利用や体験利用を通して、スタッフを含めた環境に慣れていかれるようにしている。</p> <p>入所直後は、出来るだけ家族の協力を得て、安心できるようにしている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は一緒に生活する中で、その人らしさを生かした楽しい生活が送れるよう努めている。</p> <p>生活歴の中からは教えられることも多い。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員はよい関係ができており、思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気づきの情報を伝え、一緒にケアを考えていくという関係となっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族が互いに関係を大切にしていけるよう、行事に家族をお誘いするなどしながら、日頃の状態を報告し一緒に過ごせる機会を多く作るよう努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の美容院に出かけたり、親戚、知人との交流を続けておられるなど、連絡を取り合えるような支援をしている。		
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や食事の時間等、いたわりあいや楽しそうに話し込む場面が生活の中にあり、職員は危険のないように見守り、会話が続くような関わり方をしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了しても、家族は行事や運営推進会議に参加されている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意思伝達の困難な方もあり、家族から情報を得たり、日々の行動や表情、言葉の中から気持ちを理解しようと努めている。ミーティングにおいても、皆で推し測る努力をしている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>バックグラウンドアセスメントを活用し、更に本人や家族から情報を得て、本人の全体像を把握している。</p>	<p>入所にあたっては、バックグラウンドアセスメントを書いてもらっている。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の関わりの中から利用者の生活リズムを知り、本人の出来る事、出来ない事を把握し、常に「出来るかも知れない」との思いで関わるよう努めている。心身両面から不安のない生活が送れるよう支援している。</p>	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>自分らしく暮らせるよう本人、家族の要望を聞き、アセスメントと意見交換をし、必要な支援方法を考えている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3カ月に一度、見直しをしている。また、見直し以前に変更が生じた場合、家族に伝え一緒に考え、要望を聞く等し、新たな計画を作成している。</p>	



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき、実践した結果や変化、気付いたこと等を個別記録に記入し、職員間で情報を把握している。現状の把握を行い、介護計画を見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の高齢者が、状況に応じてデイやショートの利用ができるように、認知症対応の職員を含む環境で支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	保育園、幼稚園との交流等を行い、行事ではボランティアの方々の協力を頂いている。年2回、消防署の協力を得て避難訓練を行っている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理容サービスを利用してもらっている。他の事業所と相互交流し、行事への参加をしている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらい、情報交換、協力関係を築いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じたかかりつけ医との関係を大切に、家族と協力して通院介助も行っている。また、場合によっては訪問診療も受けている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の精神科医を受診したり、往診して頂いたりして、認知症についての指導、助言をもらっている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が利用者の健康管理をしており、職員は気軽に相談できる。また、必要に応じかかりつけ医や訪問看護を利用する等、健康状態を把握している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には職員が見舞っている。また、医療機関と連携をとり、家族とも情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、家族とスタッフ全員で話し合いの場を持ち、ターミナル期に向けての方針や支援の方向性を話し合っている。かかりつけ医との連携を密にし、本人の思いに注意を払いながら支援につなげている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の思いを大切に、家族と事業所とで話し合い、本人が安心して終末期を過ごして頂けるよう取り組んでいる。また、24時間対応してもらえる地域の医療機関の協力も得られている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護サマリーを作成し、これまでの生活環境、支援内容、注意点等の情報提供をしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折に職員の意識を高め、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮している。また、スタッフ同士で注意し合い、確認、改善し、さりげないケアに努めている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の自己決定を尊重し、皆さんと楽しく生活できるよう支援している。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活習慣や思いを可能な限り尊重し、押し付けにならない関わり方をしている。また、できるだけ個別性のある関わり方をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に馴染みのある理容院から来てもらっており、行ける方は、本人の馴染みの理、美容院や認知症の理解をして下さる店を利用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は嗜好に配慮し、利用者の力に合わせて下さり、味付け、片付け等を一緒にしている。また、一緒にテーブルで、会話を交えながら楽しく食事をしている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物時に好みの菓子類を選んで頂いたり、お茶の時間の茶菓子を選んで盛り付けて頂いている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	サイン、仕草などを把握して声かけしたり、トイレに誘っている。また、チェック表等を使用してリズムを把握し、出来るだけ失敗の少ないケアをしている。トイレの前に「トイレ」「便所」と二種明記し、場所が分かるようにしている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には一日おきの入浴となっているが、よく汗をかかれる等の場合は毎日入浴されることがある。苦手な方にはタイミングや声かけを工夫し、少しでも気持ちよく入って頂けるよう努力している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は体調や気分に合わせて、午睡の声かけをしている。眠れない方とは、安心できるような関わりや、話をする等している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、縫い物、編み物、掃除、草取り等それぞれの得意なこと、興味の持てることで支援し、生き生きと自発的に過ごして頂けるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームで管理をしているが、スーパー、喫茶店など外出時に支払いをされる方もある。		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や天気に合わせて、スタッフと一緒に散歩や車での外出、買い物、喫茶店等へ出かけている。ウッドデッキ、中庭での日光浴等もされている。		
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に2回、家族やスタッフと一緒にバス旅行に出かけている。		
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じ、先方の都合も考慮した上で、電話をかけて頂いている。かかってきた時は取り次ぎ、直接話されている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に訪問時間は定めておらず、いつでも気兼ねなく訪問して頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等でケアの振り返りや何が身体拘束に当たるかを常に話し合っている。身体拘束を行わないケアを実践している。		ネグレクトについて、全員で共通認識出来るように取り組む予定である。


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中、玄関や掃き出し窓等に鍵はかかっておらず、利用者は自由に出入り出来るようになっている。</p>	
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>常に利用者と一緒に過ごしながら、さりげなく全員の状況を見守っている。 夜間も数時間毎に利用者の安否確認し、起きた時はすぐに対応出来るようにしている。</p>	
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>利用者の状態変化やケースに応じて、危険のないよう事故につながらないよう、その都度工夫、対応をしている。</p>	
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>ヒヤリハットや連絡ノートを活用し、事故防止に取り組んでいる。状況によっては家族に連絡し、ミーティング等で話し合っている。 状況に応じた研修をしている。</p>	
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>利用者の急変に備え、緊急時対応のマニュアルが作成してあり、見やすい所に置いてある。ただし、緊急対応の訓練を定期的に行っているが、十分ではない。</p>	<p>夜勤時の訓練をしていく。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>火災報知機を設置し、年に数回の避難訓練を利用者と共に行っている。また、緊急連絡網により、職員が駆けつけるシステムも取り決めている。</p>	<p>災害に備えた備品の準備をする。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時にホームでの生活及びリスクについて話すとともに、入所後は折々にホームでの生活を見て頂き、話し合ったり説明をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	些細な事も見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。変化に気付いた時には、主治医、看護師、管理者に連絡し、職員間でも共有して対応に当たっている。		
74 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は職員が内容を把握できるよう、利用者ごとに整理している。服薬時は本人に手渡し、見守りの上、きちんと服薬して頂いている。変更のある時は、申し送りや連絡ノート等の活用で共有している。		
75 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便ができるよう、食事の工夫や水分摂取、散歩、家事活動、体を動かす機会を適度に設けるよう心がけている。 チェックシートを付け、排便チェックしている。		
76 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は利用者一人ひとりの力に合わせた歯磨きの手伝いをしている。就床前は義歯の洗浄を行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた食事摂取状況を毎日チェック表に記録している。 必要な方は、水分チェック表も付け、把握している。献立表を確認しながら栄養バランスに配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを整備し、利用者、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。 ペーパータオルを使用し、ノロウイルス対策をしている。		マニュアルの周知、徹底をしていく。
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の食材の残りの点検は頻繁に行っている。 新鮮で安全な食材を使用する為、一日おき程度の買い物に出かけている。まな板、布巾等は、こまめに漂白したり石鹸で洗う等、清潔にしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇やプランターに季節の花があり、周りの環境と違和感がないようになっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状態に合わせた家具(机や椅子、ソファ等)が置かれており、自由な生活スタイルで過ごせるようになっている。五感や季節感を感じられるようウッドデッキを設置し、安全に屋外の雰囲気を楽しめるようになっている。 台所は対面式となっており、食欲へとつながっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、縁側、ウッドデッキに種々の椅子やテーブルを置き、一人で過ごしたり、気の合う利用者同士で思い思いに過ごせるスペースを作っている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室、洋間があり、生活スタイルに応じた居室になっている。写真や馴染みのものでレイアウトする等、居心地のよい部屋作りがされている。		
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物は空気の流れが出やすい構造になっている。利用者の体調等に合わせ、こまめに温度調節し、空気の入替えも行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーだけではなく、利用者の状態に合わせて安全確保と自立支援の視点で対応していくようにしている。トイレ、浴室、階段等に手すりを取り付けたり、肘掛け付きの椅子に変えていく等、工夫している。		常に危険な箇所はないか見直し、安全の確保がADLの低下につながらないかを見極めるよう努める。
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の状態の変化、新たな問題が生じた時はミーティングや連絡ノートを活用する。アセスメントの上、現状や可能性について職員一同で共通認識し、ハード、ソフトの両面から自立した生活を取り戻せるよう努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周り、中庭に野菜や草花を植え、水やり、草取り等、利用者が楽しみながら活動できるようになっている。また、長距離の散歩が出来ない方は、天候の良し悪しでウッドデッキにて気分転換をしたり、景色を楽しめるようになっている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 尊厳について常に話し合いをしており、家庭的な雰囲気の中で明るく笑いの絶えない暮らしをしている。
- ・ 認知症に対して勉強し、理解を深め、ケアの質の向上に取り組んでいる。
- ・ それぞれの個性を大切に、出来ることでの仕事の役割分担、レクリエーションを提供している。
- ・ 利用者、家族、職員のつながりを大切にしている。
- ・ 地域の方々に理解して頂くために、催しものをしたり、ボランティアを受け入れている。